

Gifu Keizai University

岐阜経済大学マガジン

GKUN **W!**

vol.
92

2016.July

50th
〔re-Birth〕

【特集】創立50周年記念特集 第2弾 ②

— 岐阜経済大学50年・第2の開学 —

- | | | |
|---------------|-----------|--------------|
| ⑥ 教育最前線 | ⑪ 内々定報告 | ⑭ 平成27年度決算報告 |
| ⑧ 輝け!アスリートたち | ⑫ キャンパス彩々 | ⑯ お知らせ |
| ⑩ キャリア支援課だより | ⑬ 研究室だより | |
| ⑪ Close-up OB | ⑬ 近著紹介 | |



岐阜経済大学50年・第2の開学



創立50周年記念事業実行委員会
委員長

石原 健一 学長

1967年4月、本学はその産声をあげた。当時の設立趣意書は、本学の成り立ちから今日的な課題までの、本質的な部分について触れたものとなっている(P.3参照)。本学がその中心課題と位置付けている有為な人材の育成を目指し、それが、創造力の発展であると同時に、責任ある立場にたってもひるまない人間力の育成をともなす推進されねばならないことが述べられている。また、大垣の地にあって学園群を形成し、その中心として、岐阜県全体に理想に燃えた将来のリーダー層を輩出すること、そして、「内外に雄飛する気魄を持つ青年・社会人の育成」を謳っているところは、今日のグローバル社会での人材育成の課題をまさに予見していたかのようである。



創立50周年記念事業を はじめるにあたって

この壮大にして、気魄あふる設立趣意書に、本学の50年の歴史がどこまで応えてきたかについては、自ら深思反省するとともに、地域の諸先輩の率直な評価を仰ぐものである。

地域に人材を輩出するという点で、本学は24,000名を超える卒業生を送り出し、中には地元岐阜県、さらには愛知県において経営者として活躍される人材も多数おられるということに、幾ばくかの矜持を覚えるところである。とはいえ、この壮大にして、挑戦の志溢れる文書に比し、今日の本学にはまだまだ欠けたところが多いと言わざるをえない。

そこで、本学は、創立50周年の大きな節目を迎えるにあたり、建学の趣旨を再確認し、ここに再び開学する(生まれる)ような気概をもって、創立50周年の記念事業を進めていくことを決意した。

本学の課題、本学への期待、本学の可能性を再確認し、学びの内実において、地域社会のリーダー養成という初発からの課題と期待に応えるべく、環境を整え直し、充実した教育への挑戦にさらに邁進したいと考えるものである。時代は当時とは正反対に、少子化の流れが進んでいる。しかし、どれほど環境が変わろうとも、本質的に、教育に求められるものは不変であり、その課題に対して真摯に向き合うことが、将来を約束する一里塚になるものと考ええる。

また、本学はこの50年のなかで、スポーツの



分野について、新たに踏み出し、着実な成果を収めてきた。他方で、女子学生の進学者が十分に増えていないことや、留学生や社会人の進学者がまだまだ少ないことなども反省し、より広い層から支持される大学に脱皮していくかねばならないとも考えるものである。男女共同参画社会の推進・多文化共生社会の実現、生涯学習社会の充実、今日の社会的な課題であり、大学はその先陣を切つて、取り組まねばならないだろう。本学は、この50周年を期に新たな支持者を得、社会の課題解決に貢献すべく、多岐に渡って、具体的な施策に踏み出すものである。

建学の精神・再定義

昭和41年9月、学校法人岐阜経済大学寄附行為認可申請書が提出され、本学の歴史が始まりました。数多くの書類の中で、設立にいたった思想を表現しているのが、「設立趣意書」です。とりわけ、建学の精神にあたる内容がもっとも凝縮されているのは下記の箇所です。



「社会事態に対処するためには、まづ有為な人材育成に着目し、一は**創造発見**の能力伸長を図り、一は社会指導の負荷に耐えうる**知才の涵養**に留意し、もつて人間**資質**の真価を**発揚**せしめることが最も肝要と思います。」

「文化においては昔日大垣城下古献豊かな適地に校地を求めて大学を設立し、もつて一面近代的広域行政にもとずく学園都市形成をめざす地元先覚の要望に応じて、中部岐阜県独自の壮大なる気宇を培い理想に燃えつつも現実より遊離せず他日内外に雄飛する気魄をもつ青年社会人を育成しようとするものであります。」

これを読み、地方創生が言われる時代、地方大学として、地方に立地する大学ならではの価値を創造発見したいと再認識しています。知才涵養には「社会指導の負荷に耐えうる」と、ことわりが付されています。資質発揚も、真価の発揚が言われています。つまり、力を地域において発揮することに力点があることに気づかされます。また、地元先覚の要望に応えるという決意は、今日流には、地域貢献ということになるでしょう。

設立趣意書を以上のように解釈し、「建学の精神」として、次の4つの言葉を導き出しました。

創造発見
知才涵養
資質発揚
地域貢献



これらを意匠化して、次のマークを作りました。



また、それぞれの熟語の頭の言葉を取った「創知資地=知を創り、地に資する」を本学の社会的使命と定義いたします。

創立50周年記念事業 シンボルマーク決定!

在学生、卒業生、教職員や地元企業、一般市民の方々から、総数2,244票を投票いただいた結果、こちらのデザインに決定しました。ご投票ありがとうございました。



デザインのモチーフ

「新たないぶきを起こす」というテーマから着想し、フェニックスをデザインに入れたものです。



オープンキャンパス等でスタッフが着用するポロシャツの制作をはじめ、様々な場面で岐阜経済大学50周年の象徴として、このマークを使用していく予定です。

50周年に寄せて ~岐経大History~



第6代学長
大迫 輝通
(名誉教授)
現在、日本国際ポスター美術館
理事長 兼 館長

その想いと願い

岐阜経済大学は、明春、創立50周年を迎えます。誠に改めてのご挨拶です。心からのお祝いを申し上げます。

半世紀前、私は縁有つて大学の創設と同時に赴任しましたが、若い時で、それに新設の大学ということもあって新しい歴史・伝統をつくるんだ、との気負いを背に岐阜にやってきました。しかし、今考え直してみますと、私が大学の歴史をつくるという気込み、又、思い込んだとは違って、大学によって育てられ、大学と成長を共にしたというのが実感です。

私は丁度30年間在職し、そして定年引退後20年近くになりますが、その間ボランティアで、大学の構内に在るポスター美術館の運営に携わつて世界のポスターの収集と紹介に努めてきました。大学には施設を始めとして、常に何かと力強い支援を頂いており、感謝の言葉も有りません。私達の活動が教学面に多少なりともお役に立てばの一心で活動しています。今後とも変わらぬご支援をお願い致します。

振り返りますと、私の在職当時は団塊の世代が進学する時期とも重なつて二千人近い学生でキャンパスが混雑する時もありました。しかし今は、静寂の中に泰然とした雰囲気があり、行き交う学生達の姿にも穏やかで落ち着きがみられます。

ところで大学では、この創立の50周年を記念して、ハード面での新しい事業が企画されています。期待が踊ります。人口減少が進み、大学、とくに地方の大学の運営困難が叫ばれる中で、岐阜経済大学は、誠実一路の教学を実践してあらゆる困難を乗り越え、この50周年を機に、いっそうの発展を願い祈念して止みませぬ。



第7代学長
米田 清治
(名誉教授)

大学の軌跡に想いを馳せ、 未来の担い手に期待する

今から約50年前、岐阜経済大学に初めて来た時のことです。

大垣駅から路線バスで大学近くの停留所を降り、しっかりと舗装もされていない数百メートルの道を歩いてやっと大学に辿り着きました。広がる田園の中に、ぼつんと校舎がひとつ建っていた、そんな記憶があります。大学の開学と同時に赴任し、教員としての人生の大部分を岐阜経済大学で過ごしましたが、振り返ってみると、教育者として何事にも真摯に向き合う学生たちと過ごし、研究者として優れた教員仲間と過ごせた人生を幸せに感じます。特に、研究教育におけるゼミナールの重要性と喜びを忘れることはできません。また、学長としての4年間は、大学教育と経営の調和、将来の危機感の狭間の時期でした。その中で、会議の主な議題は、これからの大学をどのように創っていくかなければならないかという危機感についてだったと思います。

来春、岐阜経済大学は創立50周年を迎えることになりませんが、経済学部経済学科の単科大学が大きく発展し50年の足跡を残されたことに、心からお祝いの意を表明させていただきます。今後、大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。その中で、学問研究はもちろんです。人としてのあり方を考える教育の場は存在し続けなければなりません。今、時代が大きく変わる流れの中では、大きな決断もあるとは思いますが、ぜひ皆さんの力で大学の新しい未来を創っていただきたいと心から願います。



校友会名誉会長
竹本 憲司

今こそ草創期の意欲をもって

この度は、岐阜経済大学創立50周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

私は本学の第一期生です。当時、既存の大学はマンモス大学とかレジャーランドとか揶揄されていましたが、田んぼの中にぼつんと建つ一棟の学舎に、挫折感一杯の私は、強烈な印象を受けたことが思い出されます。

クラブ活動は勿論、昼食にも事欠く状態でした。

学生自治会、ゼミ協議会など学生組織を結成し、大学当局と教学・経営・施設面等大学の基本に係る諸課題に熱い議論を交わし、時には実力行使に出たこともありましたが、姿形は既存大学とは程遠い存在でしたが、一つ私が前向きになれたのは、教職員の方々の「学生と一緒に理想に向かって大学を創っていく」という思いを感じたからです。

時間外の課外講義や教授の私宅へ酒を飲み交わしながらの熱い議論など親身に接していただいたことが、懐かしく思い出され、今でも感謝の気持ちで一杯です。

大学をめぐる環境が厳しい中、当局におかれましては、主体である学生の意欲を高める教育を重視され、経営基盤の強化にご尽力をいただきますようお願い致します。

末筆ながら、本大学の一層の発展と皆様のご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

GKU-Report ~データで見る岐阜経済大学の歩み~

[沿革]

- | | | | |
|-----------|--|----------|--|
| 1967年 1月 | 学校法人岐阜経済大学 設置認可 | 2001年 4月 | 経営学部産業経営学科をビジネス戦略学科に改称
大学院経営学研究科経営学専攻修士課程 開設 |
| 4月 | 岐阜経済大学 開学 経済学部第一部経済学科 開設 | | 留学生別科 開設 |
| 1968年 4月 | 経済学部第二部経済学科 開設
経済学部第一部及び同二部に教員養成課程開設 | | 情報技術研究所 設置 |
| 1977年 5月 | 図書館 完成 | 2003年 7月 | 地域連携推進センター 設置 |
| 1981年 4月 | 地域経済研究所 設置 | 2006年 4月 | 経営学部スポーツ経営学科 開設
経営学部ビジネス戦略学科 募集停止 |
| 1985年 3月 | 総合グラウンド完成 | 2007年 4月 | 経済学部コミュニティ福祉政策学科にコミュニティ福祉専攻と
介護福祉専攻を設置 |
| 1986年 3月 | 3・4号館(校舎棟)完成 | 2008年 4月 | 経済学部コミュニティ福祉政策学科を
臨床福祉コミュニティ学科に改称
経営学部経営情報学科を情報メディア学科に改称 |
| 4月 | 経済学部第一部産業経営学科 開設 | | 江西師範大学と教育学術交流協定を締結 |
| 1987年 4月 | 経済学部第二部経済学科廃止、
経済学部第一部を経済学部へ改称 | 2011年 4月 | ボランティア・ラーニングセンター 開設 |
| 8月 | 5・6・7・8号館(校舎棟)完成 | 2012年 4月 | 経済学部公共政策学科 開設
経済学部臨床福祉コミュニティ学科 募集停止 |
| 1990年 3月 | 体育館 完成 | 2016年 4月 | 南昌航空大学と学生交流協定を締結 |
| 1992年 8月 | 食堂 完成 | | |
| 1993年 11月 | 情報センター(9号館)、研究棟(10号館)完成 | | |
| 1994年 4月 | 経営学部産業経営学科及び経営情報学科 開設
経済学部産業経営学科 募集停止 | | |
| 1998年 10月 | まちなか共同研究室マイスター倶楽部 開設 | | |
| 1999年 4月 | ソフピア共同研究室 開設 | | |
| 7月 | 上海財経大学と教育学術交流協定を締結 | | |
| 8月 | ブルゴーニュ大学と学生交換協定を締結(2002年まで)
沖縄大学と学生の交流に関する協定を締結 | | |
| 2000年 3月 | ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジと学生交換協定を締結 | | |
| 4月 | 経済学部コミュニティ福祉政策学科 開設 | | |
| 11月 | 酪農学園大学と学生交換協定を締結(2012年まで) | | |

在学生数	1,337名(2016年5月1日現在)
教職員数	100名(教員51名、事務職員49名)
卒業生数	24,740名(2016年3月現在/大学院・別科を含む)
校地面積	109,646㎡(2016年5月1日現在)
図書館蔵書数	341,023冊(2016年3月31日現在)
2015年度就職率	99.5%(就職希望者に占める就職者の割合)

岐阜経済大学創立50周年記念事業募金ご協力をお願い

今回の50周年記念事業は、大学のイメージを大幅に刷新し、若者が集い、活気あふれるキャンパスづくりを行うものです。学生の学びや課外活動、地域に開かれた学術文化行事等、幅広いハード・ソフト事業に取り組む内容となっております。

これらの諸事業を推進するため、広く皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

募金目標金額 3億円

募金金額 個人:1口/1千円(1口以上)、
法人:口数及び金額は定めておりません

募集期間 2016年4月から2019年3月

税制上の優遇措置(寄付金控除)について

(1)個人の場合 ご寄付いただいた金額が2千円を超える場合は、「税額控除」と「所得控除」のいずれか有利な方を確定申告の際に選択することができます。

(2)法人の場合 法人からの寄付金は法人税法に基づき、当該事業年度の損金に算入することができます。「受配者指定寄付金」または「特定公益増進法人に対する寄付金」のいずれかを選択することができます。

※申し込み方法等、詳細につきましては、決まり次第公式Webサイト
(<http://www.gifu-keizai.ac.jp/>)でお知らせします。

お問い合わせ先

岐阜経済大学 財務課 TEL: 0584-77-3508 E-mail: zaimu@gifu-keizai.ac.jp

地域に根ざす“アクティブ・ラーニング”



学生が発信する防災・減災活動

—防災カルタ・防災すごろく・防災レンジャーを活用する防災・減災地域教育—

コミュニティ・サービ斯拉ーニング

経済学部 樋下田 邦子 教授

2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震を教訓に防災、減災教育や活動が進められています。そこで樋下田邦子教授の「コミュニティ・サービ斯拉ーニング」の授業を履修する経済学部2年生の学生は、ミニ防災体験の実施、防災カルタ・防災すごろくの作成や防災レンジャー部隊を結成して、学内と地域に向けて防災、減災教育を発信することを目的に取り組んでいます。それぞれの教材は、学内で使用して学べるだけでなく、災害発生時に学生がリーダーとして調整役や地域減災としての役割を担うことができます。また、子どもから高齢者まで、幅広く防災・減災について気軽に学べることにより、地域防災力、コミュニティ力の向上と、人と人の繋がりの向上も期待できます。

8月以降は、カルタやすごろくの貸し出しが行えるようになります。防災レンジャーも出前できると同時に、作成中の介護予防体操プログラムも出前ができるようになり、学生の学びが地域でも活かされるようになります。



「コミュニティ・サービ斯拉ーニング」の授業で防災すごろく作成のディスカッションを行いました。



6月25日(土)にはミニ防災体験を実施。ハイゼックスを使った炊き出しや、DIG(災害図上訓練)、HUG(避難所運営ゲーム)を行いました。



「スポーツマンのこころ」に基づいたスポーツ指導を学ぶ

演習Ⅱ 経営学部 高橋 正紀 教授

岐阜経済大学は、平成22年に(公財)大垣市体育連盟と連携協定を交わし、その協定内容の1つでもある連携事業「おおがきっすスポーツスクール」を年間に3期・60回、延べ3,000人の子どもたちと毎年実施しています。その活動の中心となっているのが、高橋正紀教授とゼミ生たち。高橋教授は、大垣市体育連盟が平成18年度に策定した「第4次将来構想」の検討委員会委員長を務め、近年では「スポーツマンのこころ」をテーマとした講演も各地で行っており、スポーツ指導者の方たちからの評判も大変高い教授です。

高橋ゼミのテーマは「子どものスポーツ改革への挑戦!」。この「おおがきっすスポーツスクール」の実施・運営を通じて、どうしたら子どもたちのこころとからだを健全に育てられるか、という大きなテーマを掲げ、このスクールで指導しています。

参加しているのは小学1・2年生。バルシューレ(ドイツ発祥のボール運動)を取り入れ、高く投げてキャッチしたり、バウンドさせてくったり…。できなかったことができるようになると「見てみて!できたよ!」と嬉しそうに学生の元へかけよってきてくれます。この「できた!」という気持ちを大切に、失敗しても励ますということを繰り返すことで、できた時の喜びが何倍にもなる。子どもたちの気持ちの変化を汲み取って、適切な声かけをすることで、子どもはスポーツがもっと好きになる。体験から得るスポーツの楽しさこそが「スポーツマンのこころ」の原点なのだ、と学生たちは子どもたちを通じて学んでいます。



グループに分かれて出席確認。大きな声で返事しよう!



この辺りに投げるとうまくキャッチできるよ。



あれ?失敗。でも楽しい!

1年生の学びを紹介

「基礎演習」共通プログラム

岐阜経済大学では、新入生の円滑な学生生活スタートのため、また修得すべき知識や情報、自立するための能力を涵養するために、必修科目の「基礎演習」において共通の教育プログラムを実施しています。大学での学びの仕組みを解説するガイダンスに始まり、大垣市や岐阜経済大学について知るための「自校教育」、禁煙支援士や栄養士の方をゲスト講師に招いた「ヘルスアップ講座」、読書を習慣づけるきっかけとする「リーディング・プロジェクト」や「図書館利用ガイダンス」、新入生同士の親睦を深める「フレッシュマン・エキスカージョン」など、大学での学びの導入科目として盛りだくさんのプログラムを展開しています。



大橋量器で枺作りの体験を行いました。



菖蒲が見ごろの曾根城公園を散策しました。

フレッシュマン・エキスカージョン

※所属セミにより内容は異なります



2015年度は、経済学部は「ニュースから未来が見える(池上彰 著)」、経営学部は「出光佐三 反骨の言魂(水木楊 著)」を課題図書としました。



表彰式

提出された感想文の中から、学部毎に最優秀賞・優秀賞を選考しました。

リーディング・プロジェクト

※2016年度は後期に実施予定



岐阜経済大学の歴史や建学の精神のほか、地元・大垣市の歴史、観光や魅力についても学びました。

自校教育



禁煙の大切さや、1人暮らしの方に役立つコンビニ弁当の上手な利用法などを学びました。

ヘルスアップ講座



図書館ガイダンス



実際にPC操作をして、書庫の本を探す体験をしました。



和田 博雄さん

経営学部スポーツ経営学科3年
岐阜県 高山工業高校出身

7歳の時、小学校の課外授業の影響でスキーを始めた和田さん。中学3年生まではモーグル競技に専念し、中学2年の時にジュニアオリンピック(エーデルワイス)に出場し3位入賞を果たしました。高校進学後はハーフパイプに種目を転向。ジュニアナショナルチームに所属し、海外の大会に参加しました。

現在は、本学スキー部に所属し、冬季は高鷲スノーパークのハーフパイプで日々トレーニングに励んでいます。昨シーズンは、ソチ五輪銅メダリストの小野塚彩那さんらとの練習会にも参加しました。

今後の目標は、夏季にニュージーランドへ遠征し、FIS大会へ出場、W杯出場のためのポイントを獲得すること。

その後は、コロラドへ遠征しW杯へ出場、JSAナショナルチームに入団し、2018年2月・大学4年で平昌五輪への出場メダル獲得を目指しています。

岐阜経済大学初のオリンピック選手輩出なるか!?皆さん、応援よろしくお願ひします!!

フリースタイルスキー ハーフパイプで平昌オリンピック出場を目指す



和田さんのジャンプ動画はこちらをCheck!



【過去成績】

- 2011/9/3 The North Face Freeski Open NZ 2011 : 17位
- 2012/3/3 FIS Race Phoenix Park KOR : 5 位
- 2013/1/11 World Cup Copper Mountain, CO : 出場
- 2013/3/28 FIS Junior World Ski Championship ITA : 15位

岐阜県トップアスリート育成事業に3団体が指定を受けました

岐阜県平成28年度トップアスリート育成事業として、本学ボート部、駅伝部、陸上競技部が競技力強化指定団体として認定され、4月28日(木)岐阜県庁にて指定証交付式が行われました。この事業は、岐阜県の競技力向上並びにスポーツ振興に寄与することを目的としています。当日は、野松敏雄ボート部部长、損斐祐治駅伝部監督、品田直宏陸上競技部監督が出席し、競技力強化指定証を授与されました。

ボート部はなんと11回目! 駅伝部は2回目、陸上競技部は初の指定となります。



左から、陸上競技部 篠田大貴主将、ボート部 川村岳主将、駅伝部 島袋匠主将



陸上競技部・駅伝部

TRACK AND FIELD・EKIDEN

輝け！アスリートたち

東海インカレで5種目優勝！

5月13日(金)～15日(日)にパロマ瑞穂スタジアム、パロマ瑞穂北陸上競技場において第82回東海学生陸上競技対校選手権大会が行われ、本学は個人種目5種目で優勝しました。男子走幅跳では、先輩方が残した歴代優勝記録を後輩が受け継ぎ、見事3連覇を達成しました。また、安田翔一選手は3年連続個人優勝となりました。(昨年、一昨年は3000mSCに出場)

[種目]男子800m [記録]1分50秒59

市野 泰地(4年 三重県 津商業高校出身) **優勝** ※2連覇達成

[種目]男子走幅跳 [記録]7m58

内久保 貴人(2年 北海道 砂川高校出身) **優勝** ※同種目3連覇

[種目]男子やり投 [記録]71m70

水野 佑哉(2年 岐阜県 大垣商業高校出身) **優勝**

[種目]男子5000m [記録]14分41秒04

安田 翔一(4年 愛知県 豊橋南高校出身) **優勝**

[種目]男子10000m [記録]30分22秒95

大垣 皓暉(4年 富山県 富山商業高校出身) **優勝**



男子走幅跳3連覇を達成した 内久保 貴人さん

岐阜経済大学に入学後、初めて東海インカレに出場させてもらい、優勝することができました。1年生の時には記録が思うように伸びず、悩むことも多くありましたが、自分を信じて頑張ってきた結果、優勝出来たことが嬉しいです。この先の試合を見据えて向うし続けます。



2016年度 上半期の主な課外活動成績

男子バレーボール部

第120回岐阜県大学リーグ春季大会

<準決勝>

対戦相手：岐阜大学

結果：2-0 勝ち

<決勝>

対戦相手：朝日大学

結果：2-0 勝ち

優勝 ※2季ぶり5回目



女子バレーボール部

東海学生春季リーグ戦 1部入替戦

対戦相手：皇學館大学

結果：0-3

1部昇格ならず



サッカー部

東海学生リーグ戦1部

2勝3敗2分 5位

※第7節終了時成績



女子ソフトボール部

東海インカレ 4位決定戦

対戦相手：中京学院大学

結果：6-4 勝ち

確定順位 4位

※全日本インカレ

出場権獲得



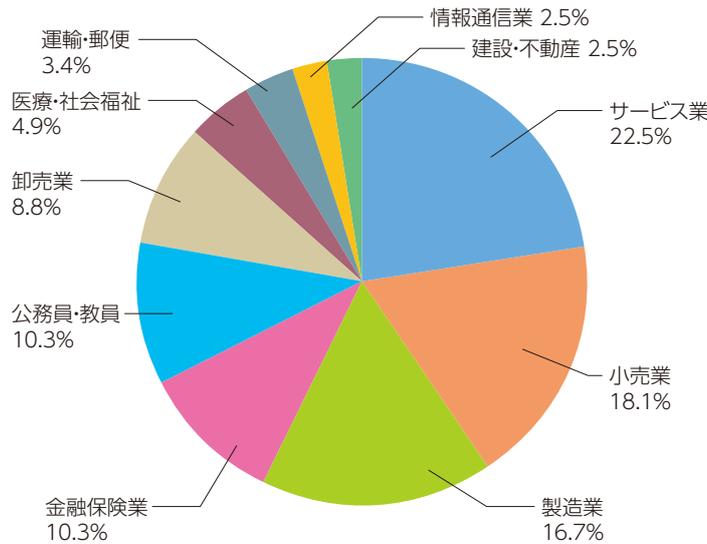
就職状況 ～2015年度総括と2016年度現状

2015年度の就職活動は、前年度とスケジュールが大きく変更（企業による広報開始が3年次の12月から3月に、選考開始が4年次の4月から8月に）したことから、学生も企業も戸惑いと混乱の中で進んだ感がありますが、学生に対しては「厳選採用の厳しい就職環境は変わらせず、緊張感を持続すること」と言い続けた1年間でした。

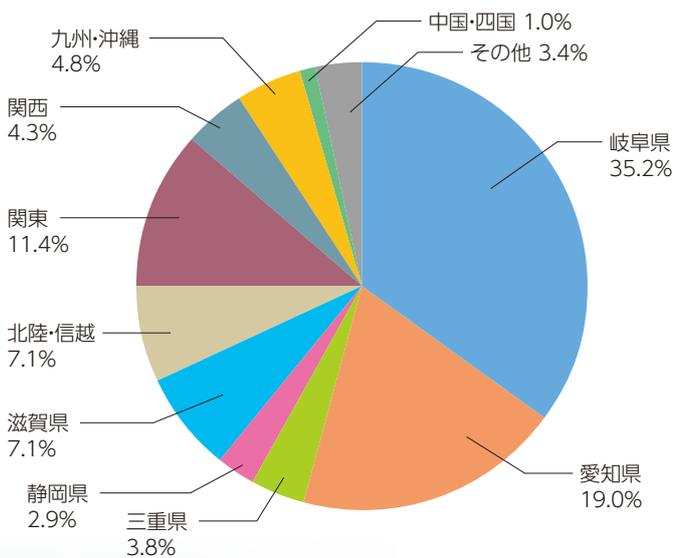
そのような状況下、企業からは前年比17.9%増の9,276社よりの求人をしていただきました。就職率は、就職希望者に占める決定者の割合が99.5%、実就職率（大学院進学者を除いた卒業生数に占める決定者の割合）が91.7%となりました（いずれも2016年5月1日集計）。そこには教員やクラブ指導者、さらに保護者との連携協力により就職年次生全員とコンタクトが取れ、意思確認ができたことも大きく影響していると感じます。この先も就職希望者の就職率100%を目指しますが、一方で数字先行ではなく、一人ひとりの理解と納得の先にある「満足」を得ることに重きを置いた就職活動サポートを心がけてまいります。

2016年度の就職活動は、2015年度よりも企業の選考開始が2か月早まり4年次の6月からとなったこと、さらに昨年度の採用計画に大幅なスリが生じた多くの企業が、いそいそ早い動きをなさしていることから、内定内々定も早く出されています。「これからは...」という学生はとにかく急いでください。慌てることはありませんが、まずはキャリア支援課へ。

■業種別就職先比率(2015年度)



■地域別就職先比率(2015年度)



キャリア支援部長から



キャリア支援部長
中川 裕司

2016年度就職活動へ向けて

企業が新卒者を採用する意欲は高く、採用選考前倒しの影響もあり、6月1日時点の4年生の内々定率は前年より数ポイント上昇しています。しかし内々定を取得したのは、卒業予定者全体の2割程度の状況にあり、まだ多くの学生が活動中または、これから活動を始める状態です。4年生で就職活動に結果が出なくて悩んだり、どうやって活動を始めたらいいか迷っているみなさん、また間に合います。まずはキャリア支援課に来てください。就職支援の専門家が、あなたの悩みに合わせていろいろな相談を伺います。求人情報の提供から、履歴書など応募書類の作成支援、面接練習などの実践的なスキル修得ばかりでなく、心の悩みなども相談に応じています。

陸上競技部の創部を目指した大学時代

Q1. 現在の業務内容について教えてください。

株式会社カクダイの関連会社であるカクダイ岐阜工場の取締役社長をしています。今の会社に勤めるまでは、いろんな会社を転々とし、営業や製造、商品企画まで様々な仕事を経験してきました。現在、100名以上の製造会社の社長として社員のモチベーションアップと地域貢献に全力を注いでいます。

Q2. 在学中はどのような大学生活を送っていましたか？

私が在学中に力を入れていた一つに「陸上競技部を作る」がありました。入学当時、陸上競技部は無く、高校時代に少し短距離で優秀な成績を収めていた私は、陸上競技部を作ることを考えました。周りの協力や高校時代の恩師の後押しもあり、2年目に陸上競技部として発足することが出来ました。その後は体育会の役員にもなり、結局は体育会を中心とした学生生活を送ることとなりました。

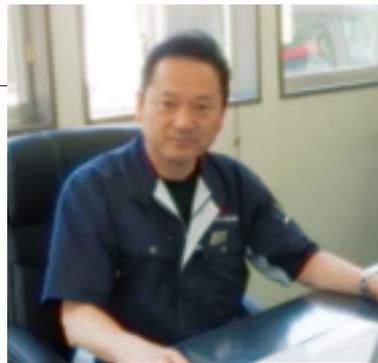
Q3. 大学で学んだことで役に立っているのはどんなことですか？

大学生活のすべてが役に立っています。良かったことはもちろん悪かったことも反省点として、それからの人生に活かされています。大学では「自分で学ぶ」「自分で考える」環境を与えてくれました。社会人になって上司や先輩のアドバイスも受けますが、自分で考えて仕事をすることがいかに大事か分かりました。



Q4. 在学生に向けて一言メッセージをお願いします。

世の中の的には「どこの大学に入るか」「どこに就職するか」が人生を大きく左右すると言われてはいますが、私はそうは思いません。どこに入るかが勤めようが目標、目的をしっかり持って人生観や仕事観を高めていく人の方が素晴らしい人生を送れます。私も今の立場からか自分のためや家族のためだけでなく、人のため、地域のため、世の中のために働いていくことが大事だと気づき始めました。



株式会社カクダイ岐阜工場 取締役社長
大西 輝彦さん

経済学部経済学科(1986年度卒業)

内々定報告

企業人育成課程 協力企業に内々定!

文武両道を貫いて



株式会社 トーカイ

私が医療福祉の業界に関心を持った理由は、祖父の自宅療養を目の当たりにしたことがきっかけでした。普段通りの生活が出来ず苦勞している祖父とそれを支える祖母の姿を見て、介護を受ける人だけでなくそれを支える人々を助ける仕事に就きたいと思いました。そんな思いを持つ中で、企業人育成課程の「地域企業研究」という講義で、株式会社トーカイについて知り、その経営方針や地域のニーズと時代の変化に即した事業展開に感銘を受けました。そして、株式会社トーカイに就職し、地元である岐阜を中心に、包括的に高齢者や介護に携わる人々を支えたいと考えるようになりました。さらに、3年次の夏に実施されたインターンシップに参加したことで、株式会社トーカイについてより深く学ぶと同時に、この企業で働きたいという思いがより強固なものになりました。

いざ就職活動がスタートしてみると、その道のりは決して容易なものではありませんでした。駅伝部に所属している私にとって、就職活動と部活動の両立は重要な課題でした。しかし、部全体でそれを支えていただいたことがエネルギーとなりました。また、選考試験の準備も、企業人育成課程の授業の中で企業研究をおこない、常に他の学生や先生方と議論を重ねてきたため、焦ることなく準備をすることができました。さらに、キャリア支援課や「みんなのセミナー」で面接練習をしていただいたことで、自信を持って面接に臨むことができました。

後輩の皆さんの中には、就きたい仕事や就職活動の内容などがわからないといった不安があると思います。そのような時は、キャリア支援課やゼミの先生、部活動の指導者といった方々が必ず力になってくれます。皆さんの就職活動がよりよいものとなることを願っております。



授業を終えたらスーツからジャージへ着替えて駅伝部の練習に参加。大会にも全力を尽くしました。



経済学部経済学科
企業人育成課程4年
村田 裕哉さん



(株)トーカイでリネン工場を見学させていただきました。企業人育成課程ならではの授業です。



キャンパス 彩々 Campus Saisai

熊本地震の募金活動を行いました。

被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。

本学ボランティア・ラーニングセンターの学生たちは、大きな災害等の際に募金活動を企画・実行しています。今回は熊本地震で大きな被害を受けた中でも、同じ大学生として、被災した東海大学阿蘇キャンパスの学生に向けて、募金活動を行うことを考え、それを全学的活動と位置づけ、支援活動を行いました。

4月18日(月)～22日(金)の5日間はキャンパス内で募金活動を行い、4月27日(水)午後は、大垣市が管理する大垣駅南北通路において、募金活動を実施しました。

募金活動では、石原健一学長や竹内治彦副学長も参加し、学生たちとともに呼びかけを行いました。学生や教職員、市民の皆様のご関心も非常に高く、募金していただく人が跡切れないほどでした。皆様から寄せられた善意は計200,027円となり、東海大学(熊本、阿蘇キャンパス)へ、無事寄付することができました。

東海大学様からは「貴学の学生様から声をあげていただき、また学長様をはじめとして教職員の皆様にもご協力いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。

本学も教職員一同、学生生徒・園児への支援及び教育環境の原状復帰を、皆様のご支援を励みに全力で頑張っております。」とお返事を頂戴いたしました。



南昌航空大学と学生交流に関する協定を締結しました。

中国江西省南昌市の南昌航空大学と岐阜経済大学は、2016年4月1日付で学生交流に関する協定を締結しました。

南昌航空大学は1952年に創立され、中国の航空業界や航空宇宙産業において非常に重要な役割を担っている大学です。正規生約22,000人、留学生約800人が在籍しています。

この交流協定により、留学生の相互派遣や、本学での科目等履修生の受け入れが可能となり、双方の大学における教育研究の発展に寄与することが期待されます。



「五月祭2016」盛況の中終了!

5月27日(金)に恒例のスポーツイベント・五月祭が開催され、272名の学生が参加する中、ドッチビーで熱戦が繰り広げられました。

32チームがエントリーし、3ブロックに分かれてそれぞれの1位が決勝トーナメントで優勝を争いました。運営は学生会・体育会・文化会・岐阜祭実行委員会の合同でスタッフを編成し、綿密な打合せを重ねて、イベントを成功へと導いてくれました。

- 優勝 大場ファイターズ
- 2位 まーさぜみ
- 3位 武藤ファイターズ



優勝した「大場ファイターズ」



コミュニティ・ソーシャルワーカープログラム開設記念講演会を開催!

6月18日(土)、経済学部公共政策学科コミュニティ・ソーシャルワーカープログラム開設記念として、NPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏を講師に招き、「コミュニティ・ソーシャルワークの魅力とは?」をテーマに講演会を開催しました。藤田氏の著書『下流老人』は、20万部以上のベストセラーとなり、2015年流行語大賞候補にもノミネートされました。

講演では、現代の社会におけるソーシャルワークの大切さとともに楽しさ、魅力を軽快な語り口で紹介くださいました。また高齢者の貧困だけでなく、深刻な若年層の貧困の実態とそれを直視できていない現状を話され、それぞれの家庭での問題だけでなく、雇用体系や所得状況、職場の人間関係など様々なことが密接に絡んだ大きな社会的問題であること、そしてそれらと一緒に寄り添い解決に導くソーシャルワーカーの仕事の醍醐味を教えてくださいました。



同日にはミニオープンキャンパスも開催され、大学施設を見学したり、個別相談をする高校生・保護者の方たちで賑わっていました。



経済学部

の ぎき みち や
野崎 道哉 准教授



私の主な担当科目はマクロ経済学で、専攻分野は、ポスト・ケインズ派マクロ経済学、地域経済分析、産業連関分析です。
私は、地域の視点から見たマクロ経済学というものが必要とされていると考えています。

私は弘前大学大学院地域社会研究科で、岩手県経済の実証的研究で博士(学術)を取得しましたが、学位論文の中で重要な部分で、自治体レベルの小地域産業連関表を用いた地域産業連関分析です。わが国の産業連関表は、1年間の国の経済取引の全体を生産面、支出面、分配面から明らかにすることができる経済のデータベースで、ほぼ5年に一度作成されています。いわば、「日本経済の健康診断表」といえばわかりやすいでしょうか。国の産業連関表に基づいて、47都道府県の産業連関表が作成されてきました。自治体レベルでは、政令指定都市を除くと、作成している市町村はまだ一部に限られています。

しかし、近年、小地域産業連関表を作成し、地域経済の構造を分析し、経済波及効果の計測など、地域経済産業振興の定量的分析に役立てようとする自治体が徐々に増加しつつあります。私も以前、自治体レベルの産業連関表を作成し、東北新幹線新青森延伸の経済効果などの研究を行ってきました。

これから、マクロ経済の研究とともに、地域産業連関分析の研究をさらに深め、地域経済の振興に貢献したいと考えます。

PROFILE

岩手県盛岡市の出身です。中央大学では、ポスト・ケインズ派のマクロ経済学を学びました。岩手県立大学時代には、地域経済の研究を始め、弘前大学大学院では岩手県の地域経済に関する実証的研究をさらに展開し、地域産業連関分析についてより研究を深め、地域経済の定量的分析を中心に研究を行ってきました。中部圏社会経済研究所の任期終了後、6ヶ月間ではありますが、オランダのフローニンゲン大学に私費留学し、客員研究員として在籍しました。その後、弘前大学地域社会研究科客員研究員を経て、2015年4月に本学に着任しました。

趣味拝見

特に趣味というほどのものはないのですが、休日に映画を見たり、美術館めぐってみたいということでしょうか。また、学会などでいろいろな場所を訪れたときに、その場所の名所・旧跡や観光地などを訪問して写真を撮ることが好きです。右の写真は、2014年7月に学会でポルトガルのリスボンを訪れた際に、記念に撮影していただきました。



近著紹介

講座 臨床政治学 第六巻「環境政治の展開」

日本臨床政治学会 監修(分担執筆) 志学社 2016年4月



私は第3章「環境問題と市民運動」を担当し、市民運動によって国や地方自治体は環境問題に対してどのような対応を取らざるを得なくなったのか、ということを書きました。高度経済成長期以降、今日に至る環境問題をめぐる市民運動の特徴を、事例をもとに分析し、地域における動向が国の政治にどのような影響を与えたのか明らかにしました。

経済学部 教授
勝田 美穂

フィールドから考える地球の未来 地域と研究者の対話

関野 樹 監修(分担執筆) 昭和堂 2016年4月

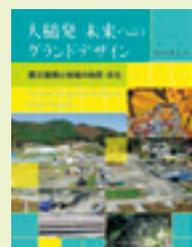


「学際」を超えたとき、現場が見えてくる!! 専門の違う三人の研究者が、同じフィールドを歩く。違う視点のまなざしが交差するとき、立体的な地域の姿が浮かび上がってくる。地域の実像との出会いが、地球の未来を映し出す。

経済学部 教授
森 誠一

大槌発 未来へのグランドデザイン —震災復興と地域の自然・文化

谷口 真人 編(共同執筆) 昭和堂 2016年3月



震災からの復興は、なにを大事にすべきなのか。壊滅的な打撃を受けた岩手県大槌町を震災前から調査していた研究者たちが、地元と築き上げてきた関係の中から、未来へのグランドデザインを描く。

経済学部 教授
森 誠一

〔その他の収入〕 13億1,771万円

退職給与引当特定資産1,000万円の取崩し、減価償却引当特定資産6,000万円を空調改修費用として充当するため取崩しています。また、有価証券で運用している減価償却引当特定資産3億円の運用替え及び創立50周年記念事業において取得する校舎等資金8億8,000万円を特定資産から繰り入れています。

②支出の部

〔人件費支出〕 9億4,533万円

専任教職員等の給与及び退職者への退職金です。退職金支出の増加により、前年度比3,145万円の増加となりました。

〔教育研究経費支出〕 5億8,951万円

9・10号館外壁補修工事の他、学生への奨学事業(学費減免、私費留學生奨学金等)、語学留学助成事業、課外活動助成事業(強化・準強化指定クラブ合宿費、遠征費等)等が主な支出で前年度比3,515万円増加しました。

〔管理経費支出〕 1億8,267万円

11号館解体工事の他、広告費や高校訪問等の学生募集経費が主な支出で前年度比1,465万円増加しました。

〔施設関係支出〕 1億459万円

9・10号館空調設備更新、学内トイレ各所改修を実施しました。

〔設備関係支出〕 2,599万円

教育研究用図書及び文部科学省教育研究活性化設備整備事業補助金の機器備品等を整備しました。

〔資産運用支出〕 11億8,389万円

創立50周年記念事業において取得する施設設備等の資金を第2号基本金引当特定資産として繰り入れました。また、有価証券の運用替えを行いました。

資金収支計算書 平成27年4月1日～平成28年3月31日まで

(単位 千円)

収入の部			
科 目	平成27年度	平成26年度	差 異
学生生徒等納付金収入	1,204,291	1,197,574	6,716
手数料収入	23,265	22,074	1,191
寄付金収入	12,202	13,109	△ 907
補助金収入	280,430	279,226	1,204
資産売却収入	100,000	695,952	△ 595,952
付随事業・収益事業収入	4,153	5,998	△ 1,844
受取利息・配当金収入	32,131	91,216	△ 59,084
雑収入	69,134	54,052	15,081
前受金収入	272,190	232,406	39,784
その他の収入	1,317,716	470,835	846,881
資金収入調整勘定	△ 297,721	△ 297,349	△ 372
当年度収入の部小計	3,017,794	2,765,096	252,698
前年度繰越支払資金	2,901,437	2,136,473	764,963
収入の部合計	5,919,232	4,901,570	1,017,662
支出の部			
科 目	平成27年度	平成26年度	差 異
人件費支出	945,339	913,887	31,451
教育研究経費支出	589,510	554,356	35,154
管理経費支出	182,670	168,014	14,655
施設関係支出	104,595	99,875	4,720
設備関係支出	25,991	37,815	△ 11,824
資産運用支出	1,183,890	200,000	983,890
その他の支出	35,332	49,897	△ 14,565
資金支出調整勘定	△ 65,625	△ 23,716	△ 41,909
当年度支出の部小計	3,001,704	2,000,132	1,001,571
翌年度繰越支払資金	2,917,528	2,901,437	16,090
支出の部合計	5,919,232	4,901,570	1,017,662

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

〔基本金取崩額〕

平成27年度に取得した固定資産取得額(空調設備更新、トイレ改修費等)が、処分する固定資産額を下回るため、基本金2億6,377万円を取崩しました。

事業活動収支計算書 平成27年4月1日～平成28年3月31日まで (単位 千円)

科 目	平成27年度	平成26年度	差 異
学生生徒等納付金	1,204,291	1,197,574	6,716
手数料	23,265	22,074	1,191
寄付金	12,202	13,109	△ 907
経常費等補助金	272,782	279,226	△ 6,443
付随事業収入	4,153	5,998	△ 1,844
雑収入	69,134	54,052	15,081
教育活動収入計	1,585,829	1,572,035	13,794
人件費	932,951	899,842	33,108
教育研究経費	772,728	728,241	44,487
(内減価償却額)	183,462	173,982	9,480
管理経費	214,968	202,729	12,239
(内減価償却額)	33,038	34,830	△ 1,792
教育活動支出計	1,920,648	1,830,813	89,834
教育活動収支差額	△ 334,818	△ 258,778	△ 76,040
受取利息・配当金	32,131	91,216	△ 59,084
教育活動外収入計	32,131	91,216	△ 59,084
教育活動外収支差額	32,131	91,216	△ 59,084
経常収支差額	△ 302,687	△ 167,561	△ 135,1 25
資産売却差額	0	455,282	△ 455,282
その他の特別収入	8,486	808	7,678
特別収入計	8,486	456,090	△ 447,603
資産処分差額	32,418	24,706	7,712
特別支出計	32,418	24,706	7,712
特別収支差額	△ 23,932	431,384	△ 455,316

〔予備費〕	7,581	6,970	610
基本金組入前当年度収支差額	△ 326,619	263,822	△ 590,441
基本金組入額合計	△ 880,000	0	△ 880,000
当年度収支差額	△ 1,206,619	263,822	△ 1,470,441
前年度繰越収支差額	1,727,570	1,410,393	317,177
基本金取崩額	263,778	53,394	210,384
翌年度繰越収支差額	784,729	1,727,610	△ 942,880

(参考)

事業活動収入計	1,626,448	2,119,342	△ 492,894
事業活動支出計	1,953,067	1,855,520	97,547

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

(3) 貸借対照表

「貸借対照表」は年度末における資産、負債及び基本金等の状況を表したものです。

資産の部の合計は、138億3,595万円となり、前年度比2億5,318万円減(1.8%)、負債の部の合計は、8億3,928万円となり、前年度比7,342万円増(8.7%)、純資産の部は、129億9,667万円となり、前年度比3億2,661万円の減少(2.5%)となりました。

貸借対照表 平成28年3月31日

(単位 千円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	10,851,683	11,135,287	△ 283,603
有形固定資産	5,664,012	5,781,506	△ 117,493
特定資産	3,701,460	3,767,570	△ 66,110
その他の固定資産	1,486,210	1,586,210	△ 100,000
流動資産	2,984,274	2,953,860	30,414
資産の部合計	13,835,958	14,089,148	△ 253,189
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	485,834	498,222	△ 12,388
流動負債	353,449	267,631	85,817
負債の部合計	839,284	765,854	73,429
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	12,211,944	11,595,722	616,221
第1号基本金	11,129,944	11,393,722	△ 263,778
第2号基本金	880,000	0	880,000
第4号基本金	202,000	202,000	0
繰越収支差額	784,729	1,727,570	△ 942,840
翌年度繰越収支差額	784,729	1,727,570	△ 942,840
純資産の部合計	12,996,674	13,323,293	△ 326,619
負債及び純資産の部合計	13,835,958	14,089,148	△ 253,189

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。

平成27年度決算報告

事業の概要

私立大学を取り巻く環境は、18歳人口が平成24年から平成29年の6年間は、120万人前後で推移する安定期と言われますが、その後の平成30年に118万人、平成33年には114万人、そして平成36年には106万人へと、段階的な減少局面に入ります。このように近い将来、一段と厳しい学生募集が予測される中で、本学は、2017年4月に創立50周年を迎えます。50周年を機に、本学の課題、本学への期待、本学の可能性を再確認し、学びの内実において、地域社会のリーダー養成という設立時からの目的と期待に応えるべく、環境を整え直し、充実した教育への挑戦にさらに邁進したいと大学改革に取り組んでいます。

平成27年度は主に次の事業を実施しました。

◎教育改革として

学生情報と指導内容を記録し、情報を一元化するデータベース「学修データカード」を構築しました。このシステムは、教職員がきめこまやかな学生指導を行うために有効活用しています。

◎グローバル化への対応

平成27年度は、南昌航空大学と連携協定を締結し、海外の連携大学は4大学となりました。

◎地域連携について

本学の地域での様々な活動が評価され、日本経済新聞社産業地域研究所が行った「地域貢献度」調査において、東海地区の私立大学中3位、岐阜県内の国公立大学中1位にランキングされました。

◎補助金事業について

文部科学省の私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金に採択されました。スポーツ活動に科学的視野を取り入れることを目的として、「リアルタイムモーション計測システム」に係る機器を補助金で整備しました。

◎創立50周年記念事業について

創立50周年実行委員会を立ち上げ、新ビジョン委員会等7つの委員会を作り、実施体制を整え、式典・広報の企画・立案に取り組みました。また、事業の基本コンセプトを「re-Birth」とし、建学の精神等を再定義しました。

財務の概要

資金収支計算書では、次年度への繰越支払資金は29億1,752万円となり、前年度より1,609万円増加しました。

事業活動収支計算書では、事業活動収入計から事業活動支出計を差し引いた単年度の収支差額は3億2,661万円の支出超過となり、翌年度への繰越収支差額は7億8,472万円となりました。

(1)資金収支計算書

「資金収支計算書」は、当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対応するすべての資金(現金の出入り)の動きを表したものです。資金収支の内容について、主な科目を説明します。

①収入の部

〔学生生徒等納付金収入〕 12億429万円

授業料、入学金、実習料、教育充実資金の収入です。授業料納付学生数は1,201名、前年度比671万円の増加となりました。

〔寄付金収入〕 1,220万円

ボート部及び駅伝部への寄付金672万円、親和会からのスクールバス運行費助成金500万円、スポーツ振興寄付金47万円を受け入れました。

〔補助金収入〕 2億8,043万円

国庫補助金、地方公共団体補助金等の収入です。国庫補助金は2億7,793万円、岐阜県からの結核予防費補助金、大垣市及び大垣商工会議所からの中心市街地協働型まちづくり事業の助成金等を受け入れました。

〔資産売却収入〕 1億円

有価証券の売却収入1億円です。

〔付随事業・収益事業収入〕 415万円

大垣市等からの委託事業5件、151万円、公開講座受講料収入204万円等です。

〔受取利息・配当金収入〕 3,213万円

定期預金利息及び有価証券等の利金3,213万円です。

(2)事業活動収支計算書

「事業活動収支計算書」は、資金の移動を伴わないもの(現金の出入りの他に消費していくもの)として、減価償却額や退職給与引当金繰入額などを計上し、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を表したもので、学校法人の経営状況を示し企業会計の「損益計算書」に当たるものです。

また、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つの区分会計を導入し、学校法人の経常的活動、臨時的活動に分けて収支を明らかにしています。

さらに、学校法人は安定的かつ持続性保持のために収支均衡を図る観点から基本金組入という企業会計とは異なる処理をしています。基本金は、将来校舎等の再取得に必要な基金として積み立てることを目的としているため、当該年度の収入から控除した上で収支バランスをみるという点が学校法人会計の特徴です。

なお、事業活動収支計算書の収支科目の多くが資金収支計算書の収支科目と共通していますので、事業活動収支計算書固有の内容について主なものを説明します。

①収入

事業活動収入計は、学校法人の負債(返済義務のない収入)とならない収入の合計です。従って、資金収支計算書の収入から資金の動きだけを示す「前受金収入」、「その他の収入」、「資金収入調整勘定」等は除かれます。

〔その他の特別収入〕

一般寄付金の他に団体、個人から寄贈された図書等247点、83万円を現物寄付として計上しました。

②支出

事業活動支出計は、施設の建設費や機器備品・図書等の資本的支出に充当する額(基本金組入額)を控除し計上します。従って資金収支計算書の支出科目から「施設関係支出」、「設備関係支出」、「その他の支出」等を除きますが、「教育研究経費」及び「管理経費」には各々減価償却額を加算しています。減価償却額は建物、機器備品などの固定資産の当期償却額を計上しています。

〔資産処分差額〕

11号館解体による資産簿価2,617万円を計上したため、全体で3,241万円となりました。

③基本金

〔基本金組入額合計〕

第2号基本金として8億8,000万円を組入れました。

スポーツ振興寄付金実績報告

平成27年度寄付金受入

平成27年度スポーツ振興寄付金総額は、皆様からの温かいご支援を受け474,000円となりました。皆様の深いご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

強化指定クラブ

・硬式野球部	1件	3,000円
・陸上競技部	13件	192,000円

準強化指定クラブ

・女子ソフトボール部	6件	60,000円
・駅伝部	7件	98,000円

一般クラブ

・少林寺拳法部	1件	3,000円
団体を特定しない	14件	118,000円
		計 474,000円

2016年度 オープンキャンパスを開催します

メインオープンキャンパスでは、在学生在が本学での学生生活や、入学を決めた理由、下宿生活、クラブ活動、アルバイトのことなどをリアルに語る「トークショー」を今年も開催します。また、高等学校とは違った大学の雰囲気を感じることができる「模擬授業体験」や、情報施設、体育館、図書館、総合グラウンドなど学習環境を見学する「キャンパスガイドツアー」など様々なイベントを計画しています。在在学生によるエイサー(7/24、8/6、10/8)も披露!

また、マンスリーオープンキャンパスでは、参加者のあらゆる疑問質問に個別にお答えし、見学も対応します。

日程

- ・メインオープンキャンパス
7月24日(日)、8月6日(土)、8月20日(土)
9月18日(日)、10月8日(土)
- ・学園祭オープンキャンパス
11月19日(土)・20日(日)
- ・クリスマスオープンキャンパス
12月17日(土)
- ・スプリングオープンキャンパス
3月18日(土)
- ・マンスリーオープンキャンパス
1月7日(土)、2月4日(土)



法人役員・評議員の就任

2016年3月23日(水)及び5月24日(火)開催の学校法人岐阜経済大学理事会において、下記の方が選任されました。

理事・評議員(新任) 川上 孝浩 大垣市議会議長
(任期:2016年5月25日~2019年5月30日)

理事・評議員(新任) 宇佐見 正史 岐阜経済大学経済学部長

理事・評議員(新任) 高橋 信一 岐阜経済大学経営学部長

評議員(新任) 蛭川 義高 岐阜県立大垣北高等学校校長
(任期:2016年5月25日~2017年5月31日)

(理事任期:2016年4月1日~2018年3月31日)
(評議員任期:2016年4月1日~2019年5月30日)

教職員人事

新規採用

2016年4月1日付



高橋 利行
経済学部教授(特命教員)
早稲田大学
理工学部数学科卒業



三和 元
経済学部講師
慶応義塾大学大学院
政策メディア研究科
後期博士課程修了
博士(政策メディア)



原田 理人
経営学部教授
東海大学 体育学部
社会体育学科卒業



佐々木 喜一郎
経営学部講師
名古屋大学大学院
情報科学研究科
社会システム情報学専攻
博士(政策)2009年3月
単位取得退学



堀 富士夫
客員教授
(株)テリカスト
代表取締役FOUNDER



中村 有壮
学生課・スポーツ振興室
スポーツ指導職員
大東文化大学
外国語学部卒業



田中 透
入試広報課
スポーツ指導職員
鹿屋体育大学大学院
体育学専攻修了



白井 洋介
学生課・スポーツ振興室
専門員
国際武道大学
体育学部卒業



林 広志
キャリアアドバイザー



坂東 市次
キャリアアドバイザー



市野 伸幸
特別キャリアアドバイザー

昇格

2016年4月1日付

篠田 知之
経営学部 准教授(経営学部 講師)

大音 和泉
入試広報課長(入試広報課主査)

吉田 大介
学生課主査(学生課主事)

配置転換 2016年4月1日付

釣餌 丈志
企画広報課長(入試広報課長)

塚原 康之
理事長室長(理事長室長兼企画広報課長)

吉形 高志
理事長室主査(理事長室主査兼企画広報課主査)

尾崎 和美
学生課主査(キャリア支援課主査)

堀 有沙
入試広報課主事(学生課主事)

河村 道彦
学生課・スポーツ振興室
スポーツ指導職員(入試広報課 スポーツ指導職員)

配置転換 2016年5月1日付

高比良 幸司
教務課主査(学生課主査)

大橋 雄一
学生課主査(教務課主査)

特別任用教授

2016年4月1日付

福地 和夫
(経営学部教授)

退職 2016年3月31日付

佐藤 八千子
経済学部教授

宮脇 孝久
経済学部准教授

小倉 幸雄
経営学部教授

大野 貴司
経営学部准教授

松島 桂樹
客員教授

荒木 優治
学生課・スポーツ振興室専門員

福井 晴次
キャリアアドバイザー

布本 俊一
キャリアアドバイザー